【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年12月2日(2010.12.2)

【公表番号】特表2010-506685(P2010-506685A)
【公表日】平成22年3月4日(2010.3.4)
【年通号数】公開・登録公報2010-009
【出願番号】特願2009-533472(P2009-533472)
【国際特許分類】
*Ａ６１Ｆ　2/82　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ６１Ｍ　29/02

【手続補正書】
【提出日】平成22年10月15日(2010.10.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
非拡張性ステントにおいて、
遠位部分と、近位部分と、前記遠位部分と前記近位部分の間の長手方向中央部分と、実質的に非拡張性の直径と、を有する管状本体を備えており、
前記管状本体は、少なくとも１つの固定要素を含んでおり、前記固定要素は、形状記憶材料を備えている補強部材を含んでおり、
前記固定要素は、身体の管腔内の治療部位への送達を支援する補強部材の第１形態と、前記治療部位での配備を支援する補強部材の第２形態と、を備えている、ステント。
【請求項２】
前記固定要素は、前記補強部材が前記第１形態にある時は、前記ステントを前記身体の管腔を通して動かし易くするように構成されている、請求項１に記載のステント。
【請求項３】
前記固定要素は、前記補強部材が前記第２形態にある時は、前記ステントが前記身体の管腔に対して動くことを阻止するように構成されている、請求項１に記載のステント。
【請求項４】
前記形状記憶材料はニッケル－チタン合金を含んでおり、前記補強部材は、前記第１形態では前記ニッケル－チタン合金のマルテンサイト相を有し、前記第２形態では前記ニッケル－チタン合金のオーステナイト相を有している、請求項１に記載のステント。
【請求項５】
前記固定要素は、前記管状本体の前記遠位部分と前記近位部分の内の少なくとも一方に配置されている、請求項１に記載のステント。
【請求項６】
前記補強部材が前記第１形態にある時は、前記固定要素は前記長手方向中央部分の方向に伸張している、請求項１に記載のステント。
【請求項７】
前記補強部材が前記第２形態にある時は、前記固定要素は前記長手方向中央部分から離れる方向に伸張している、請求項１に記載のステント。
【請求項８】
前記補強部材が前記第２形態にある時は、前記固定要素は湾曲部を有している、請求項

７に記載のステント。
【請求項９】
前記固定要素はフラップである、請求項７に記載のステント。
【請求項１０】
前記補強部材が前記第２形態にある時は、前記固定要素は、前記長手方向中央部分の曲がり部である、請求項１に記載のステント。
【請求項１１】
２つ又はそれ以上の補強部材を備えている、請求項１に記載のステント。
【請求項１２】
前記固定要素は前記管状本体と一体的に形成されており、前記管状本体はポリマーを備えている、請求項１に記載のステント。
【請求項１３】
前記補強部材は前記ポリマー内に埋め込まれている、請求項１２に記載のステント。
【請求項１４】
前記ポリマーはソラロン（Ｔｈｏｒａｌｏｎ）である、請求項１２に記載のステント。
【請求項１５】
非拡張性ステントを製作する方法において、
形状記憶材料を備えている少なくとも１つの補強部材を用意する段階であって、前記補強部材は、前記補強部材の長さに沿ってマンドレルと間隔を取った状態で、前記マンドレルに隣接して保持される、段階と、
被覆用溶液を前記補強部材と前記マンドレルに塗布する段階と、
前記マンドレルを取り出し、それによって非拡張性ステントを形成する段階と、から成る方法。
【請求項１６】
前記被覆用溶液を硬化させ、それによって、前記補強部材と前記マンドレル上にポリマー層を得る段階を更に含んでいる、請求項１５に記載の方法。
【請求項１７】
前記マンドレルを取り出す段階の前に、前記塗布して硬化させる段階を順次繰り返し、前記補強部材と前記マンドレル上に次々に重ねられたポリマー層を形成する、請求項１６に記載の方法。